

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、持ち直している」







項目	前回（5年7月判断）	今回（5年10月判断）	前回比較
総括判断	持ち直している	持ち直している	

（注）5年10月判断は、前回7月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、ドラッグストア販売が拡大しており、百貨店・スーパー販売が持ち直していることなどから、全体では緩やかに回復しつつある。生産活動は、電子部品・デバイスが下げ止まっているほか、化学が持ち直しているものの、生産用機械が拡大の動きに一服感がみられることなどから、全体では足踏みの状況にある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

【各項目の判断】

項目	前回（5年7月判断）	今回（5年10月判断）	前回比較
個人消費	持ち直している	緩やかに回復しつつある	
生産活動	足踏みの状況にある	足踏みの状況にある	
雇用情勢	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	
設備投資	5年度は増加見込みとなっている	5年度は増加見込みとなっている	
企業収益	5年度は増益見込みとなっている	5年度は増益見込みとなっている	
住宅建設	弱含んでいる	弱含んでいる	

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、世界的な金融引締めに伴う影響や中国経済の先行き懸念など、海外景気の下振れが景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「緩やかに回復しつつある」

百貨店・スーパー販売は、スーパーでは飲食料品に動きがみられることから、前年を上回っているほか、百貨店では高額品の動きがやや落ち着いているものの、飲食料品や日傘、サンダルなどの身の回り品に動きがみられることから、前年並みとなっており、全体では持ち直している。コンビニエンスストア販売は、米飯類や飲料等に動きがみられることから、堅調となっている。ドラッグストア販売は、飲食料品等に動きがみられるほか、新規出店効果もあり、拡大している。ホームセンター販売は、日用品の動きが鈍いものの、夏物用品に動きがみられることから、持ち直しの動きがみられる。家電大型専門店販売は、テレビ等の動きが鈍いものの、エアコンに動きがみられることから、持ち直しの動きがみられる。新車販売台数は、普通乗用車、小型乗用車、軽乗用車ともに前年を上回っており、持ち直している。主要観光地の入込客数及び主要温泉地の宿泊客数は前年を上回っている。旅行取扱実績は、海外旅行は厳しい状況にあるものの、国内旅行は持ち直している。以上のことから、個人消費については、緩やかに回復しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 日傘やサンダルなどの季節商品のほか、旅行用品に動きがみられる。物産展が好調であり、飲食料品の売上に寄与しているほか、客数の増加にもつながっている。また、化粧品やラグジュアリーブランド商品、食堂・喫茶などでインバウンドが大きく寄与して伸びている。(百貨店)
- 食品の値上げと、暑さによるアイス・飲料品の売上増で飲食料品は前年を上回った。一方で、衣料品では盆以降も暑い日が続き、秋物商品の動き出しが鈍い。(スーパー)
- 観光や帰省等によって人流が回復し、おにぎり等の米飯類が堅調に推移しているほか、猛暑の影響で飲料やアイスの売れ行きが良かった。一方、物価上昇の影響で買上点数は前年同月を下回っている。(コンビニエンスストア)
- 飲食料品を中心に、他業態よりも価格を抑えて販売しており、消費者が流れてきている。また、猛暑の影響により、飲料やアイスの売れ行きが良かった。(ドラッグストア)
- 日用品の動きは鈍いものの、猛暑の影響により夏物用品(エアコンやすだれ等)の売れ行きが良かった。(ホームセンター)
- 物価高による節約意識や、消費者の支出が旅行・外出に向いていることもあり、来店客数は減少しているものの、猛暑により、エアコンの売れ行きが良かった。(家電大型専門店)
- 受注台数は堅調に推移している。また、半導体の供給制約が回復に向かっており、登録台数はコロナ前の9割の水準まで達しつつある。(自動車販売店)
- コロナ5類移行後初の夏休みであり、花火大会等のイベントが数年ぶりに通常開催されたこともあって、旅行需要が高まり、客数が増加した。(温泉地)
- 外出機会の増加で脱毛サロン店が伸びたほか、観光客用の着物レンタル店などが人気である。(商業施設)
- 国内旅行では、感染症の影響で避けられていた、遠方への旅行が人気となっている。(旅行代理店)

■ 生産活動 「足踏みの状況にある」

電子部品・デバイスは、スマートフォン向けが下げ止まりつつあるほか、自動車向けが緩やかに持ち直しつつあることなどから、全体では下げ止まっている。化学は、大宗を占める医薬品で、持ち直している。生産用機械は、繊維機械が拡大しているほか、金属加工機械が増加しているものの、半導体製造装置が弱い動きとなっていることなどから、全体では拡大の動きに一服感がみられる。金属製品は、大宗を占めるアルミ建材で、住宅用が弱い動きとなっているほか、ビル用が持ち直しに向けた動きに一服感がみられることから、弱含んでいる。繊維は、衣料向け、非衣料向けともに緩やかに持ち直しつつある。以上のことから、生産活動については、足踏みの状況にある。

- スマホ向けは、新機種発売に伴う受注により、徐々に生産を増加している。(電子部品・デバイス)
- ジェネリック医薬品の需要は引き続き強く、生産が追い付いていない。(化学)
- 新規受注が減少しているものの、受注残が積み上がっているため、フル稼働で対応している。(生産用機械)
- 住宅市場の低迷が続く、住宅用とそれに付随するエクステリアの受注が振るわず、先行きも不透明である。(金属製品)
- 車両資材(カーシート)は、半導体不足による自動車減産の影響がほぼなくなり、上向き傾向が続いている。(繊維)

■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直している」

有効求人倍率は、低下しているものの、高水準で推移している。新規求人数は前年を下回っており、新規求職者数は前年を上回っている。雇用保険受給者実人員は前年を上回っている。以上のことから、雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

- 慢性的な人手不足となっている。労働環境を重視する傾向が強まっており、交代制勤務は以前に増して好まれない状況。作業環境の整備を進めていく必要がある。(繊維)

- コロナの5類移行により飲食店等が営業を平常化したことで、再び人手の取り合いが発生している。(小売)
- コロナ禍前と比べて従業員が減少しており、以前の稼働率に戻ると対応しきれない状況。レストランの店舗数を縮小し、定休日を設けることで対応している。(宿泊)
- 温泉旅館では人手不足が続いており、空室があっても予約を断らざるを得ないこともある。(観光協会)
- 物価高などを背景に、生活維持などのために求職活動を行う高齢者や主婦が多くなっているほか、転職やダブルワーク等の相談も増加している。(労働局)

■ 設備投資 「5年度は増加見込みとなっている」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年7-9月期

- 製造業では、生産用機械器具などが減少となるものの、情報通信機械器具、化学工業などが増加となることから、全体では増加見込みとなっている。
- 非製造業では、不動産などが減少となるものの、金融・保険、運輸・郵便などが増加となることから、全体では増加見込みとなっている。

- 半導体増産のための新工場建設などにより、増加見込み。(情報通信機械器具)
- 店舗の建設やシステム更新などにより、増加見込み。(金融・保険)
- 前年度に実施した大型投資の反動などにより、減少見込み。(生産用機械器具)

■ 企業収益 「5年度は増益見込みとなっている」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年7-9月期

- 製造業では、窯業・土石製品などが減益となるものの、自動車・同附属品、情報通信機械器具などが増益となることから、全体では増益見込みとなっている。
- 非製造業では、建設などが増益となるものの、情報通信、学術研究・専門・技術サービスなどが減益となることから、全体では減益見込みとなっている。

■ 企業の景況感 「『上昇』超となっている」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年7-9月期

- 企業の景況判断 BSI は、製造業、非製造業ともに「上昇」超となっている。なお、先行きは、全産業では5年10-12月期は「上昇」超、6年1-3月期は「下降」超となる見通しとなっている。

■ 住宅建設 「弱含んでいる」

- 新設住宅着工戸数でみると、弱含んでいる。

■ 公共事業 「前年を下回っている」

- 前払金保証請負金額でみると、前年を下回っている。

■ 金融機関の貸出金 「前年を上回っている」

- 金融機関の貸出金は、前年を上回っている。




■ 企業倒産 「前年を上回っている」

- 負債総額は前年を下回っているものの、件数は前年を上回っている。

■ 消費者物価(金沢市、生鮮食品を除く総合) 「前年を上回っている」

- 消費者物価指数でみると、前年を上回っている。

3. 各県の総括判断

	前回 (5年7月判断)	今回 (5年10月判断)	前回比較	総括判断の要点
石川県	持ち直している	持ち直している		個人消費は緩やかに回復しつつあり、生産活動は緩やかに持ち直しつつある。また、雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
富山県	持ち直している	持ち直している		個人消費は緩やかに回復しつつあり、生産活動は足踏みの状況にある。また、雇用情勢は、持ち直しのテンポが緩やかになっている。
福井県	緩やかに持ち直している	持ち直している		個人消費は緩やかに回復しつつあり、生産活動は横ばいの状況にある。また、雇用情勢は、持ち直している。